De Profundis　対訳

これは「深き淵より」として知られる詩篇130番である。
フランス・バロックの作曲家ドラランドMichel-Richard de Lalande（Delalande、1657-1726）は
その末尾にレクイエムの冒頭部分を付加してモテットとして作曲している。(作品番号S.23)
一方、彼と同時代のシャルパンティエ(1643-1704)は、逆に「死者のためのミサ」の末尾に「深き淵より」を組み込んで
作曲している（作品番号H.7）。

①

De profundis clamavi ad te, Domine;　わたしは深き淵より私はからあなたに呼びかけます。主よ。
～から　深淵　呼びかける　～に　あなた　主よ

Domine, exaudi vocem meam.　主よ、私の声をお聞き下さい。
主よ　聞いて下さい　声を　私の

②

Fiant aures tuae intendentes　あなたの耳を傾けてください
耳を　あなたの　傾けて下さい

in vocem deprecationis meae.　わが哀願の声に。
声に　哀願　私の

③

Si iniquitates observaveris, Domine,　もし、あなたが諸々の不義に目をとめられるならば、
もし　不正(複)に　あなたが気付いたなら　主よ

Domine, quis sustinebit?　主よ、だれが耐えられるでしょうか。
主よ　誰が　耐える、持ちこたえる

④

Quia apud te propitiatio est;　なぜなら、あなたの側には和解があり、
なぜなら　～の側に　罪の償い、和解

et propter legem tuam sustinui te, Domine.　そしてあなたの法の故、主よ、あなたに耐えられるのです。
～の故に　法　あなたの　私は耐える　あなたに　主よ

⑤

Sustinuit anima mea in verbo ejus:　主の言葉によって、私の魂は持ちこたえます。
耐える　魂は　私の　言葉　彼の

Speravit anima mea in Domino.　私の魂は主を待ち望みます。
待ち望む　魂は　私の　主を

⑥

A custodia matutina usque ad noctem,　　夜警が夜の間ずっと朝を待ち望むように

(by)　夜警　　朝　　～の間ずっと　　夜

speret Israel in Domino.　　イスラエルよ、主を待ち望め。

待ち望め　　イスラエルよ　主に

⑦

Quia apud Dominum misericordia,　　なぜなら主には、いつくしみがあり、

なぜなら　～の側に　　主　　慈悲

et copiosa apud eum redemptio.　　また豊かな贖いがあるからです。

豊富な　　～の側に　　彼　　あがない（買い戻し、身請け）

⑧

Et ipse redimet Israel　　主はイスラエルをあがなわれます。

彼自身は　あがなう　　イスラエルを

ex omnibus iniquitatibus ejus.　　その全ての不義から。

～から　全ての　　不正(複)　　その

（以下、Requiem入祭文冒頭2行）

⑨

Requiem aeternam dona eis, Domine,　　永遠の平安を彼ら（死者）に与え給え、主よ

平安を　　永遠の　　与え給え　彼らに　主よ

et lux perpetua luceat eis.　　そして永遠の光が彼らに照らされんことを。

そして 光が　　永遠の　照る　　彼らに

©2023 Kenichi Yamagishi